

大阪で暮らす

～いまむかし～

今年度の大阪連続講座は、旧家より伝わる古文書、市井の人々の暮らしぶりを伝える民具、そして、現代に生きる大阪の人々の話から、大阪の暮らしを考えます。

第1回 7月13日(土)

人

「生活史」聞き書きのすすめ -個人から見た大阪の記録-

講師 **岸 政彦** 氏 (京都大学大学院文学研究科教授)

第2回 7月27日(土)

大阪の長屋 借家人の暮らし

講師 **深田 智恵子** 氏 (大阪くらしの今昔館学芸員)

文

第3回 8月3日(土)

モノが語る人びとのコト -民具・景観から考えるおおさかの暮らし-

講師 **俵 和馬** 氏 (大阪歴史博物館学芸員)

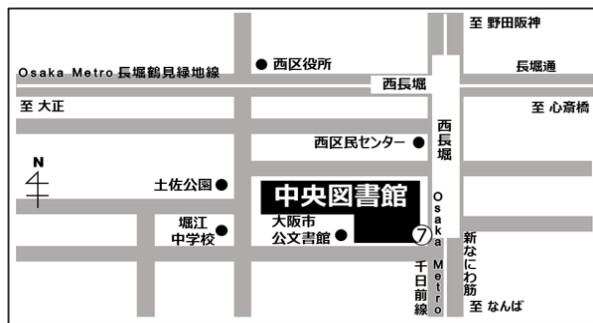
物

各回ともに

時間 午後2時から3時30分
(開場 午後1時30分)

定員 300名 (申込不要・当日先着順)

会場 大阪市立中央図書館 5階 大会議室



Osaka Metro 千日前線・長堀鶴見緑地線
西長堀駅7号出口すぐ

手話通訳をご希望の方は申込が必要です

各回とも開催日の2週間前までに、お名前・ご連絡先・講座名・参加回、「手話通訳等希望」を明記のうえ、ファックスでお申込みください。ファックス：06-6539-3335

問い合わせ 大阪市立中央図書館

利用サービス担当

電話：06-6539-3302

〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2

第1回 7月13日（土） 「生活史」聞き書きのすすめ -個人から見た大阪の記録-

昨年（2023年）、『大阪の生活史』という本を出版しました。これは一般の方々から公募した150人の聞き手が、大阪に縁のある150人の語り手の生活史（人生の語り）を聞いてまとめた分厚い本です。この本を紹介しながら、親や友人など、身近な人びとの人生を聞いて書く、ということについてお話しします。

講師 岸 政彦 氏（京都大学大学院文学研究科教授）

社会学者・作家。令和3(2021)年に小説『リアン』（新潮社）で織田作之助賞を受賞。令和2(2020)年頃より、東京、沖縄、大阪にて、100人超の聞き手を公募し、生活史を集約する大規模なプロジェクトを実施。主な著書に、『断片的なものの社会学』（朝日出版社、2015）、『大阪』（柴崎友香との共著、河出書房新社、2021）などがある。

第2回 7月27日（土） 大阪の長屋 借家人の暮らし

近世大坂で最も基本的な住宅形態は長屋でした。長屋というと、行商人や職人が暮らす路地裏の棟割り長屋のイメージが一般的ですが、江戸時代の大坂では、大通りに面する商家も、その多くが長屋でした。本講座では大阪市立中央図書館資料の「小林家文書」を中心に、表長屋・裏長屋それぞれの暮らしぶりを考察します。

講師 深田 智恵子 氏（大阪くらしの今昔館学芸員）

専門は、建築史・都市史、都市居住システム、大阪の近代住居史等。これまでに担当した主な展覧会に、「町家を彩る ～ハレの日のしつらい～（2016）」、「船場花嫁物語（2016）」、「大阪の長屋（2023）」、「船場花嫁物語Ⅱ（2024）」などがある。

第3回 8月3日（土） モノが語る人びとのコト -民具・景観から考えるおおさかの暮らし-

民俗学は、市井の人びとの暮らしぶりを伝承から探る学問です。伝承には、民具と呼ばれる生活道具や景観など、有形のものも含まれます。それらは、自らその経歴を語ることのない無口な「モノ」たちです。この講座では、そんな「モノ」たちの声に耳を傾け、おおさかの人びとの「コト」を聞き、暮らしのいまむかしを考えます。

講師 俵 和馬 氏（大阪歴史博物館学芸員）

専門は、民俗学、特に環境民俗学。生業や動物民俗、民間信仰などから、自然利用の実態や自然観について研究している。これまでに担当した主な展覧会に、特別企画展「和菓子、いとおかし-大阪と菓子のこれまでと今-(2022)」、特集展示「大阪近郊の農業-農具とわざの諸相-(2022)」、特別企画展「異界彷徨-怪異・祈り・生と死-(2023)」などがある。

関連企画

- Webギャラリー 「大阪の暮らし」
6月1日（土） ▶ 8月31日（土）
大阪市立図書館デジタルアーカイブで掲載
- ケース展示 「大阪の暮らし」
6月21日（金） ▶ 9月18日（水）
大阪市立中央図書館 3階 エレベータ前



「内平野町殿村平右衛門家の台所 東区史より」
（大阪市立図書館デジタルアーカイブより一部改変）